巻頭特集　吹奏楽を通した社会教育

御浜町ジュニアバンドが届ける クリスマスの調べ

友だちがいたから、兄姉が楽しそうだったから、親に勧められたから……。理由はさまざまだが、「やってよかった」とみんなが、はにかんだ笑顔で答えてくれた「御浜町ジュニアバンド」。真剣な眼差しで楽器に向かう姿も印象的だが、ここでは上手に演奏することは二の次という。年に一度のクリスマスコンサートはもうすぐだ。

上）吹奏楽の楽器を手にする機会は少ない。子どもたちはその貴重さをわかっている　下右）指導者の南木啓司さん　下左）手づくりのポスターなど、告知も子どもたちが行う。コンサート当日はまさに一年の集大成

音楽好きの子どもたちが続々と集まる木曜の夜

クリスマスコンサートは、年に7回ほどある演奏会で、その年の集大成ともいえるもの。地元、御浜町ではこの季節の風物詩となってきている。メンバーもこの日を楽しみに練習を重ねるが、これがゴールではない。

「一生懸命やっていても、なかなかゴールには辿り着けないもの。ミスなく納得した演奏ができたとしても、これでよいと100%満足することはない。それがソロではなく、みなで演奏する吹奏楽なら、なおさらゴールは遠い。仲間とイメージを共有して、一つの音を響かせるのです」と「御浜町ジュニアバンド」の指導者代表、南木啓司さんは語る。

結成は平成9年。御浜町で行われた記念式典で、「こんなときに生演奏をしてくれる楽団があれば」という思いがきっかけとなり、「御浜町ジュニアバンド」はつくられた。地元の音楽文化を高めようと、指導に当たるのは「ウインドアンサンブルくまの」のメンバー。この地域に住む吹奏楽の経験を積んだ社会人バンドだ。指導者は南木さんを含め、7人いる。

現在の団員は、小学4年生以上が9人、中学生6人の15人。結成当時は40人ほどいたそうだが、年々減りつつあるのが実情。それでも東紀州で唯一の、小中学生合同のバンドである。

「子どもたちの習い事の形態が昔とは変わってきました。通いはじめる年齢は低くなり、種類も増えて選択の幅が広がっています。学習塾をいくつも掛け持ちする子がいる中で、1週間に一度といえども、ここにやってきてくれる2時間は貴重」と南木さん。この2時間で上手くなれというつもりはない。仲間と切磋琢磨し、楽しみ、孤独な練習を繰り返していく中での上達だ。指導者として大事にしているのは、どのようにバランスをとらせるかだという。

子どもたちが主体となり人として成長していく場

それぞれに担当の指導者がつき、アドバイスを受ける

「吹いていても楽しくなければ続かない。上手くなりたいだけでやっていると行き詰まってしまう」。自身の体験からそう感じている南木さんは、子どもたちからやる気を感じとれなかったり、悩んでいるのを見かけたりすると、自分はどうだったかを考える。どんなアドバイスを必要としているのか、練習が足りないのか、時間が解決してくれるのか。吹けない、できないからといって、頭ごなしに怒るのではない。

会場を盛り上げるパフォーマンスもあり

ときに厳しくも、無理に責任を課すようなことはしていない。その分、子どもたちの自主性を重んじている。楽器ごとに分かれる練習では、学年の幅が広いことで、上級生が下級生にむける眼差しはあたたかい。子どもも同士がお互いに高め合い、個々のやる気や自信に結びついていく。それらが、生き生きとした演奏につながっていく。

3年前からは、近畿大学附属新宮高等学校・中学校の吹奏楽部が行うコンサートに、参加する機会も得られた。御浜町のイベントに一緒に出演する試みもある。演奏に刺激を受けることはもちろんだが、世代や地域を超えたつながりが深まる。

南木さんの音楽以上を見据えた指導は、取材当日にも見ることが出来た。練習終了後の帰り際、南木さんが話したのは、その日自身が気になったひとつの会話について。「言葉はきちんと考えて使ってくれよ。何気ない一言が人を傷つけ、取り返しのつかないことになる。近しい人にはむしろ礼儀に気をつけること。仲間の意識をしっかり持って、気遣いをする」。大人でも忘れそうなことを、子どもたちはしっかり理解しようと耳を澄ませる。言葉を吐かれた相手を思って、心配な表情をする子もいた。

「ここでは子どもたちと一緒に、勉強させてもらっています。教える方も教わる方も大切に、2時間を過ごしています」

経験を積み、自信をつけまとまった音をつくる

小学4年生の大久保音乃さんはメロフォン担当。小さい体で精一杯の音を紡ぎ出す。小学生には体力的につらいこともあるし、体が小さいから今はできない楽器もある。

「シャイな子が多い」と聞いたが、ひとたび楽器を手にすれば堂々たるもの

「先生のように音を出すのは難しい」と、クラリネットを手にうつむく小学6年生の西晴菜さんに「音が出るまで時間のかかる楽器だからあせらずに。指もまだ小さいんだし」と声をかける——。指の動きを考えるより、音を出すことに集中するようにとアドバイスをする。そのとたん、詰まり詰まりだった音が流れ出した。まずは体が楽器に馴染むことが大切と実感したようだ。

みんなが集まり、南木さんの「I、2」を合図に、個々の音色がひとつのメロディーとなって、清々しく響く。最年長、中学3年生の山本佳奈さんは、曲の後半、少し頭を上げ、楽譜から仲間の方に視線を動かした。「後悔しないよう、しっかり練習しなくては」。クリスマスコンサートを前に、練習は大詰めだ。

音を楽しむ、音楽。競う場所ではなく、ここをきっかけに、吹奏楽、そして音楽を好きになってくれたらいい。ずっと続けていれば、いつか一緒にできるかもしれないし、と何年後かの共演を楽しみにしている指導者がいた。

第17回クリスマスコンサート
日時：12月15日(日)14時開演
場所：御浜町中央公民館(御浜町阿田和4926番地1)
電話：0597-92-3151

文／中村元美　写真提供／南木啓司さん　写真／ステキ工房 みやち とーる　デザイン／chica